

2022年3月10日

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

**笹川スポーツ財団 スペシャルサイト『スポーツ 歴史の検証』**  
**——国や地域の境界も、パラスポーツとスポーツの違いも超え、世界をつなぐ——**

## 第107回 室伏 広治 氏

(スポーツ庁長官、東京医科歯科大学特命教授)

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する笹川スポーツ財団(所在地:東京都港区赤坂 理事長:渡邊一利)では、日本のスポーツの歴史を築かれてきた方々のお話をもとにスポーツの価値や意義を検証し、あるべきスポーツの未来について考えるためのスペシャルサイト「スポーツ 歴史の検証」を掲載しています。

2021年度のテーマは「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」。昨夏に行われた2020年東京大会に尽力された方々が、それぞれの立場・視点で大会を振り返ります。

今回登場するのは、スポーツ庁長官の室伏広治氏。父親の重信氏もオリンピック入賞のエリートアスリートでありながら、自分が行っていた競技種目にこだわらず、スポーツと人とのよりよい関係性について広い視野で考えています。障害の有無や程度、ジェンダー、ライフステージ、居住地などを問わず、あらゆる人々がさまざまなスポーツを楽しめるようにするために、スポーツ界は何をすべきか、そして何ができるのか。インタビューでは、スポーツとともにある健やかな社会の青写真が、室伏氏の柔らかかつ明晰な語り口で描き出されています。ぜひご一読ください。

**「東京オリンピック・パラリンピックで証明されたスポーツによる社会貢献」 室伏 広治 氏**

【URL】 [https://www.ssf.or.jp/ssf\\_eyes/history/interview/107.html](https://www.ssf.or.jp/ssf_eyes/history/interview/107.html)

スポーツ歴史の検証 で検索ください!



【主な内容】日本スポーツ界の重要なターニングポイントに／難しい調整が求められた競技スケジュール／新しい時代の楽しみ方が生まれた大会に／東京オリンピック・パラリンピックの真の成功とは／スポーツ庁として取り組むべき「情報の平等化」／ジェンダー・バランスのとれた社会の実現を目指して／スポーツが文化として成熟していく社会へ

《プロフィール》

**室伏 広治 (むろふし こうじ) 氏**

1974年生まれ。1998年のバンコック・アジア大会での大会新記録樹立を皮切りに、4回のオリンピックを含め数々の大会に出場。2004年アテネオリンピックでは金メダルを獲得するなど好成績を収める。2016年～2020年9月には2020年東京大会組織委員会スポーツ局長兼スポーツディレクターを務め、翌10月にスポーツ庁長官に就任、現在に至る。

**佐野 慎輔 (さの しんすけ) 氏 / インタビュアー**

1954年生まれ。産経新聞客員論説委員、尚美学園大学スポーツマネジメント学部教授、笹川スポーツ財団理事／特別上席研究員。スポーツ記者を30年以上経験し、日本オリンピックアカデミー理事、野球殿堂競技者表彰委員を務める。

＜スポーツ歴史の検証＞概要

【企画制作】公益財団法人笹川スポーツ財団

【後援】スポーツ庁、東京都、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会ほか

【特別協力】株式会社アシックス